

平成18年12月8日
 環境局都市環境管理課
 課長：加茂野秀一
 係長：梅下勝己
 TEL：582-2238

八幡東田グリーンビレッジ構想について

八幡東田グリーンビレッジ構想とは

八幡東田地区は、明治34年(1901年)に官営八幡製鐵所第一溶鋳炉にはじめて火が入って以来、20世紀の日本の近代産業を支え、時代の先導役を担ってきた地である。平成13年(2001年)には「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」を開催し、21世紀における環境への取組みのあり方について様々な提示を行った。

その成果を、博覧祭後のまちづくりに活かし産学官民の協働で「八幡東田グリーンビレッジ構想」がとりまとめられた。

一方、国においては、都市再生事業の一環として「環境共生まちづくり」を進めるために、モデルとなる提案を募集し、平成15年6月、本市が提案した「八幡東田グリーンビレッジ構想」が選定された。

この選定を契機に、構想内容の具体化に向けた検討を行う「八幡東田グリーンビレッジ構想推進地域協議会」を設置し、実施計画を策定した。実施計画では、共有価値の創造、循環型エリア・マネジメント・システムの構築、街並み形成、快適な暮らしの創出、協働を促進する拠点づくり、取組みの発信の6つを取組みの基本に据え、24のプログラムを定めている。

共有価値の創造	1	北九州/環境首都パスポート事業 【H16年度 実証実験】
	2	サイクル特区の構築
	3	カーシェアリングシステムの構築 【H17.1事業開始】
	4	バス、トラック等大型交通(物流)の効率活用
	5	エコ・ドライブ支援プログラム
	6	アロハ・プロジェクト【H16年度】
	7	ローカルルールづくり
循環型エリア・マネジメント・システムの構築	8	都市エネルギー管理システムの構築 【H17.2天然ガス ¹ 発電供給開始】
	9	廃棄物マネジメント・システムの構築
	10	再生可能燃料(バイオエタノール混合ガソリン)の利用促進
	11	サステナブル計画の策定
街並み形成	12	街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
	13	東田グリーンビレッジ植林事業
	14	(仮称)北九州オープン・エア・ミュージアム計画
快適な暮らしの創出	15	微気候形成プロジェクト
	16	環境共生型住宅整備計画の策定 【H18年度 (仮称)八幡東田アパルジメント ² 着工】
	17	シビック・コンビニエンス・センターの設立
	18	安全・安心のネットワークづくり
協働を促進する拠点づくり	19	「地球温暖化対策地域協議会」の立ち上げ【H16.5設立】
	20	東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム 【H16.3 東田エコクラブ ³ ハウス設置】
	21	交流の場と環境教育の場の提供
	22	サステナビリティレポートの市民評価システムの導入
取組みの発信	23	東田サステナビリティレポートの整備
	24	まちづくりPR

これまでの主な実績

東田エコクラブハウス設置

- 【事業概要】 環境配慮型の建築物であり、環境保全活動を行う NPO 法人等の環境活動、啓発活動の拠点として活用
- 【設置時期】 平成 16 年 3 月

事業所向けカーシェアリング事業

- 【事業概要】 1 台の低公害車両を複数のものが共同利用することにより、環境への負荷の低減を図るものである。
- 【事業開始】 平成 17 年 1 月
- 【事業主体】 NPO 法人タウンモバイルネットワーク北九州
- 【使用車両】 軽自動車（日産モコ：低公害車）2 台

天然ガス利用コージェネ発電による電力供給

- 【事業概要】 構造改革特区認定の下、電力供給者と東田地区内に立地する企業等が組合を設立することにより密接な関係を構築し、環境負荷の小さい天然ガスコージェネ発電電力の地域内利用を進めている。
- 【事業開始】 平成 17 年 2 月
- 【事業主体】 (株)東田コージェネ
- 【発電設備】 5,500KW ガスエンジン×6 基（計 33,000KW）
- 【事業費】 約 40 億円

関連事業

SHINE 博物館構想

- 環境ミュージアム 平成 14 年 4 月開館
- 自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館） 平成 14 年 10 月開館
- ・太陽光発電設備（160KW） 平成 18 年 11 月竣工
- （仮称）北九州産業技術保存継承センター 平成 19 年 4 月開館予定